

小原英二著

## 単一民族神話の起源

「日本人」の自画像の系譜

四六判・三八〇〇円

新曜社

本書は明治中期から戦後に至る日本民族論の変遷を跡づけたもので、戦前は領土拡張にそつた混合民族論が主流であり、単一民族論の一般化はむしろ戦後であること、膨大な文献に依りながら結論している。マイノリティの権利擁護に発した論説が侵略正当化の思想へと展開する皮肉など、次々と紹介される著名な知識人たちの誰しもが、時代の子であることを免れえなかつた冷厳な事実を語り興味深い。「研究」という行為を深く考えさせる書である。(島)